

〈研究成果の紹介〉

納豆加工向けダイズ「すずおとめ」の奨励品種採用

農業研究所 作物研究課

1. 成果の内容

県内で栽培される大豆（作付面積2930ha、平成19年）は、主に豆腐加工に用いられる「フクユタカ」が作付面積の95%以上を占めています。消費者の『地産地消』ニーズの高まりを背景に、県内実需者から納豆に適した小粒大豆を県内でも生産して欲しいとの要望がありました。そこで納豆加工向け大豆として九州沖縄農業研究センター育成の小粒大豆「すずおとめ」が県内の一部地域で栽培され始めました。平成19年産で約35haの作付けがあり、それを用いた納豆が県内メーカーから市販されています。今後さらに需要の拡大が見込まれることから、「すずおとめ」奨励品種に採用することで、県内産納豆用原料の需要に応えることができ、大豆生産の振興を図ることができます。

「すずおとめ」の特性は以下のとおりです。

- 1)粒形が球で、白目で裂皮が少なく、百粒重が10g程度の小粒大豆です（図1、表1）。
- 2)「フクユタカ」と比較して、成熟期は6月末播種では18日、7月中旬播種では7日早い早生品種です。主茎長は「フクユタカ」とほぼ同等でやや長く、倒伏しやすい傾向があります。稔実莢数は多いものの百粒重が小さいた

め、収量性はやや劣ります。外観品質は腐敗粒の発生はわずかに多くみられますが、裂皮は少なく、「フクユタカ」と概ね同等です（表1）。

- 3)納豆としての評価は、北海道産「スズマル」の納豆と比較して、「かたさ」の評価は軟らかく、「香り」の評価は低い傾向があります。しかし、「糸引き」は同程度で、「味」については良好であり、納豆用原料として概ね良好であると評価されています。（表2）。

2. 技術の適用効果と適用範囲

「すずおとめ」の普及対象地域は県内全域で、当面の普及予定面積は約60haです。

3. 普及・利用上の問題点

- 1)播種期が早いと倒伏しやすいので、播種適期である7月中旬頃の播種に努めてください。
- 2)小粒（百粒重10g程度）であることから、適正な播種量（播種量0.2kg/a）に努めてください。

（松井 未来生）

表1 「すずおとめ」の生育・収量特性(奨励品種決定調査)

試験地	品種名	成熟期 (月・日)	主茎長 (cm)	倒伏 (0-5)	最下 着莢高 (cm)	稔実 莢数 (/㎡)	収 量			百粒重 (g)	外観 品質 (1-7)	障 害 粒			
							全重 (kg/a)	子実重 (kg/a)	同左 比率(%)			紫斑粒 (0-5)	褐斑粒 (0-5)	裂皮 (0-5)	腐敗粒 (%)
松阪市	すずおとめ	10.16	81	2.6	15	1794	65.7	29.0	91	9.6	4.6	0.3	0.1	0.5	3.2
	フクユタカ	11.03	87	2.9	16	1012	75.3	31.8	100	30.1	4.8	0.0	0.7	1.0	2.3
伊賀市	すずおとめ	10.28	53	0.0	11	1853	51.0	25.5	83	11.6	5.0	0.0	0.0	0.0	-
	フクユタカ	11.04	51	0.0	12	904	56.1	30.6	100	33.1	5.0	0.0	0.0	3.5	-

※松阪市:農業研究部における2001年~2005年(2004年を除く)の奨励品種決定調査の4年間の平均。
ただし最下着莢高は2007年だけのデータ。伊賀市:伊賀農業研究室における奨励品種決定調査の2006年だけのデータ。
播種期は松阪市は6月第6半旬、伊賀市は7月13日。播種密度は、農業研究部は16粒/m²、伊賀農業研究室は19粒/m²。
倒伏程度、障害粒程度は無(0)~甚(5)の6段階。外観品質は上の上(1)~下(7)の7段階評価。
腐敗粒は子実重に対する重量割合を表す。



図1
左: フクユタカ
右: すずおとめ

表2 「すずおとめ」の納豆食味評価

	かたさ	香り	糸引き	味
評価	-0.39	-0.39	-0.06	0.72

※北海道産「スズマル」を基準(0)とし、±1の3段階で比較評価した。
供試した両品種の納豆は平成15年産で、一般販売している県内K食品製。
パネラーは「すずおとめ」生産者など15名。